



発行所
 日刊自動車新聞社
 東京都港区芝大門1丁目10番11号
 購読料 1カ月5343円+税
 電話 東京(03)5777-2351代表
 ©日刊自動車新聞社2016

11月22日
 (火曜日)

整備専門の玉野自動車(平林潔社長、横浜市神奈川区)は、整備作業の工程管理をITで二元化し、汎用性の高い「EBE整備支援システム」を活用して、整備作業の工程管理をより進化させている。

「EBE整備支援システム」を導入したのは、工程管理システムと連動できる汎用性と、経営者の観点と現場のニーズによる。平林社長は「月々の固定料が安くて性能がよい」と判断し、実務担当者の「使いやすい」との評価で現在のシステムに切り替え



サービスフロントの小倉聖美さん(右)、平林なつみさん(左)

玉野自動車

(横浜市神奈川区)

EBE(イーバ)「EBE整備支援システム」導入

電話とも連動 シンプルで工程管理さらに進化

サービスフロントの小倉聖美さんと平林なつみさんは、「シンプルで使いにくいところがない。初心者でも使いこなせる」と評する。数多くの便利な機能の中で、平林さんは電話と整備支援システムとの連動が特長と挙げる。「安心して電話対応が行える」。システムに登録されている顧客からの着信であれば、入庫履歴などを画面で確認し、スムーズなやり取りが行える。小倉さんは車両の型式検索が魅力とみる。入庫した車両と同じ型式の車両履歴を型式やキーワードなどを入力すると引き出せ、見積書の作成時間の短縮



ペーパーレスで紙を受け取る時間がなくなり作業に集中できる

「お客様に忘れていないというアピール」になる。平林さんと小倉さんは「われわれの業務を助けてくれるシステム」と信頼する。

同社はクラウドによる独自の工程管理システムを構築。1人1台タブレット端末を用い、ペーパーレス化と、入庫車両や管理顧客情報の共有化を推進する。タブレットは工程管理をメニューに使用する。従来の作業工程と同じ流れのまま、パソコンやタブレットで作業を進め、業務効率を向上させる。平林社長は「出張でも入庫状況がタブレットでわかる」とデータの共有化もメリットと強調する。

容の漏れがない見積書が作成できる。顧客のアフターフォローにも「EBE整備支援システム」は欠かせない。後日整備の顧客をリストアップし、トップ画面に表示させる機能がその一つ。これによりアプローチを通じて、

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。